

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270500630		
法人名	株式会社 佐藤器機		
事業所名	グループホーム あげぼの		
所在地	青森県五所川原市大字稲実字開野177番地20		
自己評価作成日	令和4年10月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和5年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりの不安を和らげ、自分のペースで、心地よく生き生きとした生活を送れるように取り組んでいる。  
 冬季期間(11月~4月)を除き、毎月外出の機会を設け、気分転換を図っている(令和2年度から新型コロナウイルス感染対策のため自粛中)。  
 家族に利用者の写真を掲載した新聞を毎月発行し、ホームでの暮らしぶりをお知らせしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家族との関係を大切にすると共に、地域で利用者が自立した生活が送れるように支援している。  
 ホームでは利用者中心に物事を考え、コロナ禍で様々な制限があるものの、状況を見て、感染症対策を徹底しながら、できる事や楽しめる事をして生活できるよう、日々のサービス提供に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に基本理念と運営方針を掲示し、職員は理念の理解に努め、日々のサービスを心がけている。	ホーム独自の理念を作成している他、地域密着型サービスの役割を反映させた運営方針も作成している。理念はホーム内に掲示する等して共有を図り、職員は利用者が住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、日々の支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染対策のため、現在、ホームへの立ち入りを制限し、外出を控えている。	コロナ禍のためホームへの立ち入りを制限しており、地域住民との交流が難しい状況であるが、近隣の散歩時に挨拶を交わす等、できる限り地域と交流できるように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも気軽に相談できる体制を心がけている。また、外部の人を受け入れる際は、利用者のプライバシーに十分に配慮している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和2年度より新型コロナウイルス感染対策のため、開催は中止しているが、構成委員には2ヶ月に1回書類等を送付して意見をいただき、サービスの向上に努めている。	コロナ禍のため、運営推進会議は書面で開催しており、市の課職員や民生委員、交番署長等がメンバーとなっている。また、メンバーの意見は、ホームの運営やサービス提供に活かせるように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政担当者には、必要に応じて電話等で連絡し、助言や指導をいただいている。	電話やメール、直接面会して質問や相談等を行い、利用者の生活の質を高めるため、アドバイスをいただいている。また、自己評価及び外部評価結果等を提出し、ホームの実態を理解してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の内容や弊害について理解し、日々のケアを提供している。日中は玄関を施錠せず、外出傾向の方を察知できるように見守り、一緒に付き添う等の支援をしている。	マニュアルを作成している他、内部研修等を行い、職員が身体拘束の内容や弊害について理解できるように取り組んでいる。ホームでは身体拘束は行わない姿勢で、日々のケアにあたっている。	身体拘束適正委員会の設置はありませんので、定期的に会議を開催することを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待となる行為について学び、虐待等を発見した場合には家族や職員が関係機関に通報し、相談できる体制となっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料等を確認して理解することで、制度を活用していけるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や退所時は、利用者や家族の不安や疑問点に十分に説明を行い、同意を得ている。必要に応じて退所後の情報提供を行い、支援している。法改正等があった際には書面で十分に説明を行い、理解、納得をしていただいているから同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の暮らしの状況や健康状態等の報告を行い、家族から見た利用者の状況や意見を聞いている。問題点は職員で話し合い、対応策を考えて改善に努めている。	毎月の支払いのために来所した際等、家族から意見や要望を引き出せるようにしている。また、意見や不満等を上手く表すことができない利用者には、日々寄り添い、表情や行動の観察、利用者同士の会話等から、些細な事でも把握できるように取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要に応じて都度話し合いをしている。職員で結論を出すことができない場合には、代表者に確認を行い、実施している。	管理者と職員は気軽に何でも話せる関係を構築しており、職員から出された意見は検討し、ホームの運営や業務改善に向けて反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者を通じて、各職員の努力や勤務状況を把握している。職員が向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受けることで、職員がより良いケアを身につけ、実践できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協会に加入し、交流する機会を設けている。また、意見を共有し、サービスの質の向上に努めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心してサービスを利用していただけるよう、話を傾聴している。馴染みのある安心した生活を送れるよう、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族や関係機関の話をよく傾聴し、利用に至るまで十分に話し合いをしている。また、家族の都合を考慮し、信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始にあたり、利用者と家族の要望や状況に対して、支援の必要性を見極めている。必要に応じて各関係機関と連携を図り、多方面でのサービス利用を含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりの喜怒哀楽を共有し、理解できるように努めている。また、利用者から学ぶ他、得意分野はお願いし、利用者が主体となって共に暮らせるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報交換を密に行うことにより、家族の思いや気づきを把握している。共に利用者を支えていく関係を築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	情報収集の他、会話の中から関わってきた人や馴染みの場所を把握し、関わりを継続できるように支援している。	利用者が安心して生活できるよう、アセスメントや関係者からの情報収集を行い、馴染みの人や場所を把握し、関係が途切れないようにして支援されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、一人で過ごす時間も大切にしながらも、孤立しないように支援している。利用者同士のトラブルの際には状況を見極め、必要に応じて職員が介入している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、関わりを必要とされる利用者や家族には支援を行っている。これまで築いてきた関係を大切に、支援をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望に沿えるように努めている。対応が困難な時は家族の協力を得て、その人らしい生活ができるように支援している。	日常生活の関わりの中で、利用者の思いや暮らし方の希望、意向を把握しており、家族や関係者からも情報収集を行っている。また、意思疎通が困難な方は表情や行動を観察し、全職員で話し合い、把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活状況や家族の情報から、生活歴や個性、価値観等の把握に努め、プライバシーに配慮しながら、その人らしく暮らせるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの1日の暮らし方や生活リズム、心身の状況を把握して、利用者の負担にならないように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で十分に話し合い、利用者や家族からの意見や要望を反映した介護計画作成に努めている。状況に応じて、新たな介護計画を作成するように努めている。	利用者や家族、関係者からも意見や希望を確認し、介護計画を作成している。また、全職員でカンファレンスを開催し、利用者本位の個別具体化された介護計画作成に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の1日の生活状況を個別ケースに具体的に記入し、職員は情報共有をしながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームの多機能性には限りがあるが、利用者や家族の状況に応じた、柔軟な対応ができるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通して情報交換を行い、これからは安心して暮らせるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの受診状況を把握し、利用者や家族が希望する医療機関を受診できるように支援している。市内は職員、他市町村は家族に行くことで、了解を得ている。	入居時にかかりつけ医を確認し、継続して受診できるように支援している。専門医も含め、市内の受診はホームで支援し、他市町村の通院は家族が対応しており、必要時には家族も含めた話し合いを行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に変化が生じた際は医療機関と連携を取りながら、適切な対応や受診ができるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関や家族と情報交換を行い、状況を把握している。退院に向けた支援体制については、家族に状況報告をして今後の方向性の確認を行い、医療関係と相談しながら、受け入れの支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護は行っていないため、家族や医療機関と今後の方向性について十分に話し合いを行った上で、支援に取り組んでいる。	終末期への対応は行わない方針であり、医療処置が必要になったり、経口摂取が困難になった場合はホームでの対応が困難なため、住み替えが必要となることを入居時に説明している。また、家族とはその都度相談し、対応を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を受け、急変や事故発生時に備えて、実践力を身につけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施している。災害時には近隣住民の協力を得られるよう、体制を築いている。	日中・夜間を想定した具体的な避難誘導策や、対応手順等を定めたマニュアルを作成している。災害時には近隣住民の協力が得られるように働きかけている他、食料や飲料水、毛布、カセットコンロ、ラジオ、ストーブ等を用意している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、言動の否定や拒否等せず、誇りやプライドを損ねないように心がけて支援している。	職員は利用者の言動を否定せず、受容的な姿勢を心がけており、介助時の声かけは利用者の羞恥心に配慮して行っている。また、利用者への日々の対応について、ホーム全体で確認を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の情報や言葉から、思いや希望を把握している。一人ひとりのペースに合わせて対応し、自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調や心身の状態に合わせ、希望に沿えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回、出張理美容室の来訪があり、利用者の希望に沿えるように支援している。また、衣類や整容の乱れには、さりげなく対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	系列の管理栄養士が栄養面に配慮したメニューを作成し、食材等の手配をしている。苦手なメニューがあった際には代替食を提供し、利用者の状態に応じて、配膳や片付けを一緒に行っている。	法人の管理栄養士が献立を作成しており、利用者の好き嫌いに配慮し、その時々季節を感じる食べ物を献立に取り入れている。また、利用者の可能な範囲で、食事の準備や後片付けを職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮した献立となっており、食事や水分の摂取量を記録し、一人ひとりの状態を把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人ひとりの状態に合わせ、見守りや一緒に行う等、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄状況に応じて事前に誘導したり、羞恥心やプライバシーに配慮して速やかに支援している。	排泄表を活用し、オムツを利用している方でも日中はトイレ誘導する等、排泄の支援に取り組んでいる。また、誘導時や失禁時の声かけは、周りの方に気づかれないよう、配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫や水分摂取量の確認、必要に応じて医療機関へ報告し、改善に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの状態に合わせ、リフト浴を使用する等、安全に入浴できるように支援している。	一人ひとりの入浴習慣や希望、体調や羞恥心に配慮しながら、個々に合わせた入浴支援を行っている。また、入浴を拒否する利用者に関しても、声かけ等を工夫しながら、週2回は入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを把握し、日中は身体を動かしたり、傾眠し過ぎないように声かけ等を行っている。また、必要に応じて専門医に相談し、安心して眠れるよう、職員間で統一した支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	情報を個人ファイルで管理し、いつでも確認できる状態にしている。内服薬の変更時は全職員に周知している。また、誤薬や飲み忘れ等がないよう、確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や希望、力量を把握して、一人ひとりに合った役割や楽しみを喜んで行えるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できる限り希望に沿えるよう、散歩や買い物で外出できるように支援している。楽しみや気分転換につながるよう、レクリエーション等で外出の機会を作っているが、現在はコロナウイルス感染防止のため、外出を控えている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の力量に応じて金銭管理を行えるように支援している。また、外出の際は支払いを行えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と相談しながら、利用者の希望に応じて電話をかける等、支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った装飾で四季を感じていただいている。家庭的な雰囲気を保ち、テレビの音量や日差し、湿度・温度の管理・調整を行い、刺激にならないように配慮している。職員の声や物音が騒がしくないように心がけている。	ホーム内には季節の変化を感じられる装飾を行っている。職員の話し方は穏やかで、テレビや音楽等の音量も適度なものとなり、利用者が心地良く過ごせる環境作りを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係性に配慮し、テーブルやソファの配置を工夫している。外を眺めるための場所を作る等しており、利用者は好きな場所で、思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使用していた馴染みの物を持ち込んでいただいております。居心地良く、安心して暮らしていけるように配慮している。	入居時に馴染みの物を持ち込む必要性について説明し、以前から愛用していた物の持ち込みが行われている。また、担当職員が利用者と一緒に、生活しやすい居室作りを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全かつ自立した生活が送れるよう、玄関先にはスロープ、建物内には手すりを設置している。一人ひとりに合わせた目印を設置し、さりげなく場所を把握してもらるようにしている。		